

夏合宿・黒部川上ノ廊下から赤木沢

2002年8月3日～6日

メンバー L河崎 吉田 大内(記)

上ノ廊下遡行を目的にチームワーク作りを含み3人で岩トシ、徒渉練習、泳ぎの谷等大きな谷での練習ではなかったが、それなりに積み重ねてきた。未だ先のことと思っていた夏合宿当日が、あつという間に来てしまった。

夕立後のいくらか涼しさを感じる新宿であったが、都庁そばの夜行バス乗り場は、北ア方面の登山者でにぎわっていた。バス出発時間ぎりぎりになって来た河崎君を待ちながら吉田さんと「ここで敗退だな！」と冗談を言い合う。

一日目

天気は予報どおり良い。扇沢から始発のトロリーバスで黒四ダムへ。バス3台ほどの人々が待っていた。平の渡しまでの湖岸道は、荷は重い割と歩き易い山道が続く。少し無理をすれば十時の船に合いそうだが、計画通り奥黒部ヒュッテ付近にツェルトを張ることにして、のんびり休みながら行く。平の渡しから先の道は崩れた所が多く、木の梯子の上り下りで足にこたえる。待望の黒部川の流れを右下に見ると、明日からの遡

行に期待と不安が入り混じる。

ヒュッテの人に7月28日頃深瀬信夫が入ったこと、又、まだ水量が多く3日ほど前に入ったパーティが引き返しているとのこと。「泳ぎのうまい人が居ないと進めないよ。ウエットスーツは持っているの。」等と少しおどかされる。冷えたビールを買い込み、入渓とこれからの頑張りを思い乾杯する。夕方小さめだが岩魚を数匹釣り上げ、夕食に岩魚汁が加わった。

二日目

ツェルトを張った所で入渓準備をして、少し緊張気味に5～6分東沢を下降し上ノ廊下に入る。水流に勢いがあり、水も冷たい。下ノ黒ビンガ付近は何回かのスクラム徒渉で思っていたより楽に通過する。第一の難関口元ノタル沢の先の淵は右岸から左岸に徒渉し、2m程の岩場に上り流れの中に飛び込んで対岸に渡る。ザイルを張っても深い流れの中に飛び込むのは勇気がある。上ノ黒ビンガ付近は両岸壁から美しい滝がかかり、上ノ廊下のスケールの大きさをしみじみ感じる。ここに来て良かったと思う。金作谷付近の側面には大きな雪渓が残るが、開けていて明るい。順調に進め時間的にも早いので先に進むことにする。金作谷の先は谷が狭まり流れの早い廊下となる。右岸側にハーケンを打ちザイル徒渉を試みる

が流されてしまう。河崎君が同じように途中までザイルに頼り徒渉し、後は飛び込むように対岸に泳ぎ着く。セカンドからはザイルを頼りに割りと楽に通過する。その先の大きな淵は右岸から左岸に吉田さんが流されながら泳ぎ切る。上流から下流に流されながらうまく泳ぐのがコツである。雲が厚くなり天気気が気になってきたが、核心部を無事通過して3人共気持ち楽になる。しばらく行くと左岸に草の台地があったが、その下の河原の砂地にツェルトを張る。雨が降り出した中、吉田さんが大きめの岩魚を釣り上げて来た。断続的に夜まで雨が降り続き、小さなタープの下で3人雨の増水も気になったが、焚き火を囲み上ノ廊下の真ただ中に居るんだという満足感も感じていたのです。

三日目

朝のうちは曇っていたが、徐々に晴れとなる。ツェルトを出発して15分位行くとゴルジュ入口の淵となる。右岸から左岸にスクラム徒渉。側壁を登り残置により10m程懸垂下降をする。さらにその先は流れが速く、ハーケン一本打ちザイルトラバースとなる。すぐ下に落ち込みがあり、流されるとまずいので緊張する。しばらくは谷が狭まり適当に乾いた両壁をへつりながら通過。楽しめる。やがて谷が右側に曲がり美しい一枚岩板状のナ

メ床を行くと右岸より赤牛沢を入れる。岩苔小谷出合付近は谷も開け明るい感じだ。谷の形状は岩魚が居そうなのでつりタイムにするがまったくつれなかった。岩苔小谷の先で再び谷が狭まり、柚状節理の岩床になり美しい。どう通過しようかとルートファイディングが楽しくなるところ。一ヶ所左岸上部の岸壁が崩れている場所の通過で、河崎君が4〜5mへつった後流れを岩に飛びつく所はきわどい感じでひやりとした。後の二人も少し下流の流れの早い中ザイルでの徒渉に緊張する。この後は三人共、立岩奇岩の自然の造形に感心したり冗談を言い合う余裕もあったのですが、薬師沢までの炎天下での河原の照り返しにまいりました。やっとの思いでたどり着いた薬師沢小屋付近の河原では中年の男の登山者が何人も体を洗っており、僕達はビールを買い込むと早々と逃げるように赤木沢出合に向かったのです。何だか薬師沢小屋に着いた安心感より、見たくも無い人間臭さを見せられた感じがしてしまっただけです。しばらく河原状を歩くと美しいゴルジュとなり、一ヶ所残置シュリンゲを頼りにトラバースする所あり。やがて左岸より岸壁の間から広い淵の中に赤木沢が出合い、本流も巾の広い1m程の滝となり流れ込む。「圧巻は赤木沢が合流する大淵で、碧水の美しさは黒部随一である。」と鈴木竿山が書いてい

る。出合手前左岸の狭い河原にツェルトをはる。岩魚は一匹だけしか釣れなかったが、夜はすばらしい星空になった。焚き火も豪快に燃えた。

四日目

美しい朝焼け空に、昨夜の残り火からすぐ焚き火も燃え出す。二人とも寒かったとさかんに言う。のんびり準備して7時少し前に赤木沢に入る。美しいナメ滝の連続と明るい開けた兩岸の高山植物に、この谷の人氣がうかがえる。岩板上から落下する大滝もすばらしい。短い谷だが、谷の美しさが凝縮されているのだろう。源頭は草原状の中、赤木岳手前の縦走路にでる。わりとあっけない感じだ。北ノ俣岳を経て暑さにくだりながら飛越トンネル側に下った。途中寺地山下で赤木沢を歩くという田中さん達三人パーティに出会う。タクシーで平湯温泉に向かい、新宿行高速バスにて帰る。

コースタイム

8月2日 新宿発22時30分

8月3日 扇沢着5時50分、同発6時30分、黒四ダ

ム着6時50分、平の渡し発12時00分、

奥黒部ヒュッテキャンプ地着14時30分

8月4日 ツェルト発6時30分、金作谷出合先、ゴルジ

ユ帯通過して左岸の河原着14時30分

8月5日 ツェルト発6時30分、薬師沢出合着14時

30分、赤木沢出合着15時30分

8月6日 ツェルト発6時50分、赤木岳手前登山道1

0時05分、北ノ俣岳10時30分、飛越ト

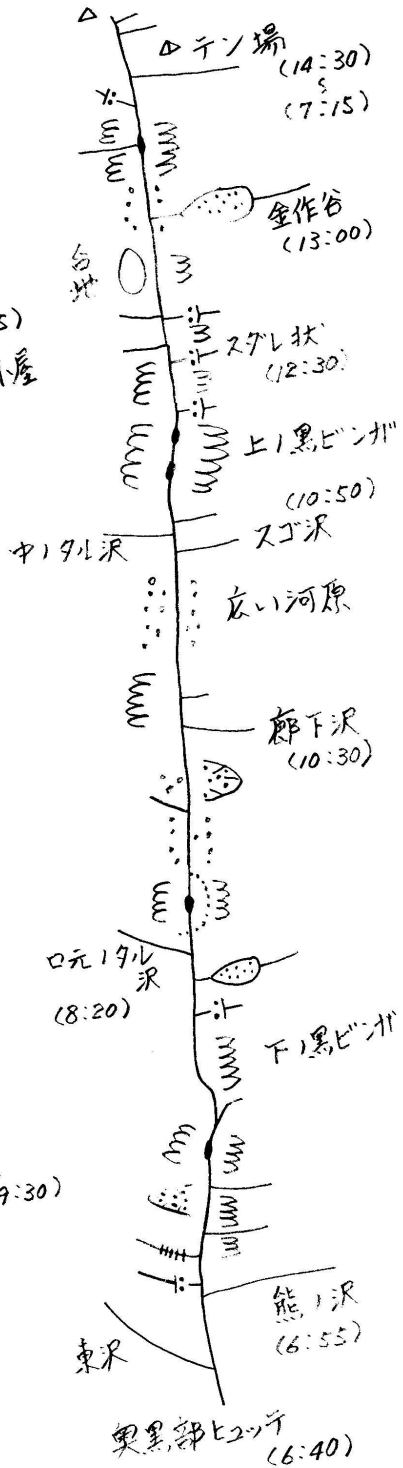
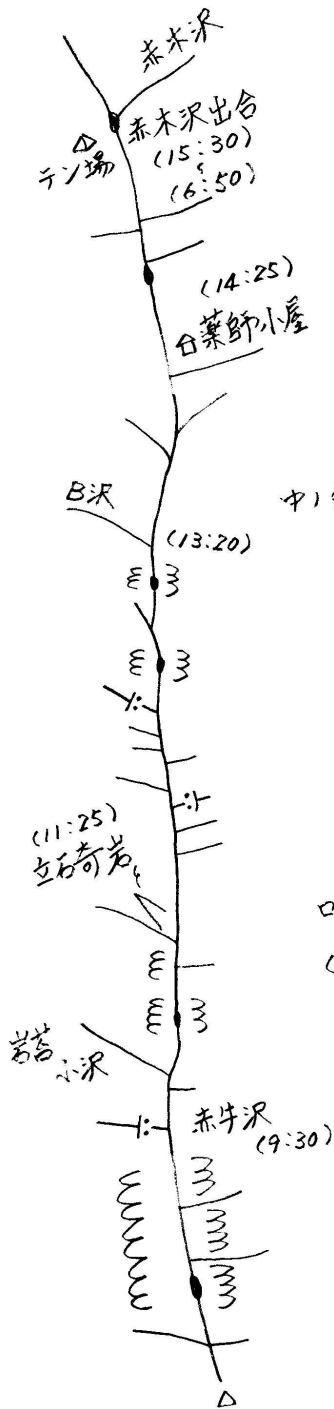
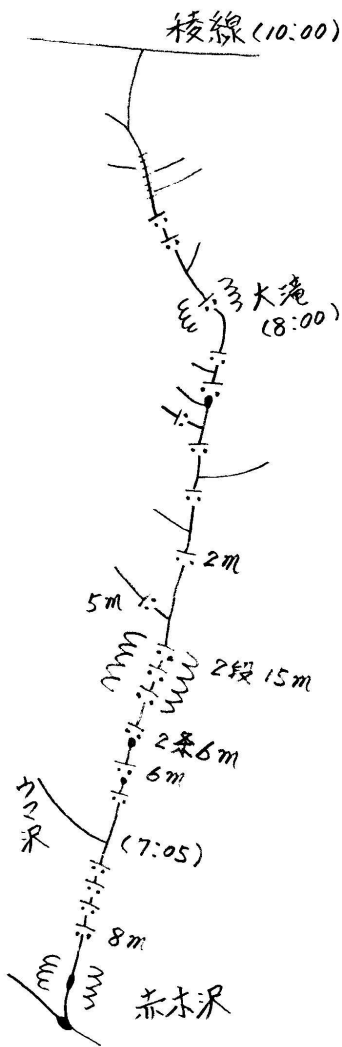
ンネル15時10分、平湯温泉着16時20

分、17時25分、同発17時25分、新宿

着22時00分







黒部川上1廊下
2002年8月3日~6日
作図 若田晴夫